

## 【東北ぶらり旅】

2006.8.18-19 H.M

JR 東日本の広報誌『トランベール7月号』の記事を見て、「この機会をのがすと次はもうこの世にいないだろうなあ」なんていう会話から思い立って東北の旅に出ました。

2006年8月18日(金)

間々田 7:18 宇都宮線

宇都宮 8:07 新幹線「やまびこ 103」

仙台 9:30 着、駅の「トレン太くん」でマーチを借りる。

松島周辺は大渋滞、仙石線松島海岸駅近くの町営無料駐車場に車を置き海岸まで歩く。五大堂の前には延々100m 位の列、拝観料 2,000 円。「さすが三十三年に一度の御開帳、すごい収入だろうな」「デイズニールランドみたいだねえ」 皆、口々にそんなことを言いながら拝観を待っている。



濃霧の中の五大堂



拝観を待つ人々



三聖堂

同じく三十三年御開帳の三聖堂と日吉山王神社を参拝する。この神社は神仏分離後の現在も瑞巖寺の鎮守の一つとなっている。3箇所全てを回り、国重要文化財の不動明王をはじめ33年に一度しかできない秘仏を参拝できました。

### 瑞巖寺

本堂の裏側の座敷に伊達政宗に殉死した 20 人の家臣の位牌が並んでいるのを見て思わず手を合わせる。資料館には円空が彫った阿弥陀如来が展示されていた。巨木の根元に直接彫られた仏様の顔は長い間なでられてきたらしくつつつにすり減っている。衣の裾のあたりは年輪が浮き出て衣のひだのように見える。

### 塩釜神社

本殿の横には今年の干支である戌の巨大な絵馬が飾ってある。自分の干支でもあり、手を合わせておみくじを引く。未吉「意地を張らずに行動すれば思いが成就します。」

### ホテル浦嶋荘 Tel 022-366-2131

陸前浜田駅のすぐそば、窓からは東北本線と仙石線を行く列車が良く見える。ほぼ満室、駐車場の車は京浜ナンバーが多い。露天風呂で疲れを癒した後の夕食は、松島湾の海鮮料理と地酒。東北特有の辛口がいただける。



日吉山王神社



瑞巖寺参道



釈迦如来(円空)



塩釜神社の絵馬

8月19日(土)

8:30 チェックアウト、仙台南部道路を経て山形に向かう。

### 秋保・里センター

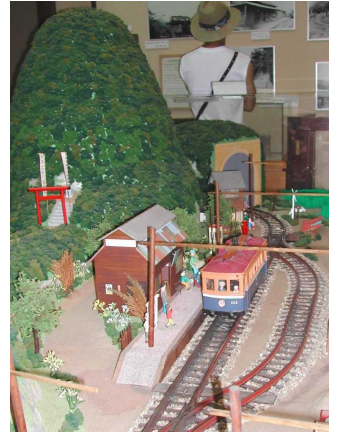
センター内には秋保電気鉄道の展示があった。この鉄道は大正3年に秋保の石材を運搬するため馬車鉄道で開業。大正14年から廃線になる昭和36年までは秋保電気鉄道として長町と秋保湯元を結ぶ地元住民の足として活躍していたそうである。



センター前のお地藏さん



秋保電気鉄道の路線



太白山麓を走る電車

### 立石寺

汗だくになって石段を登る。あまりの高さにトシを感じるが参拝を終えて下って来る人のすがすがしそうな顔に元気づけられ奥の院にたどりつく。



立石寺奥の院



岸壁の上に立つ御堂



参道途中のセミ塚

### 山寺芭蕉記念館

米倉齊加年主演のビデオ「おくの細道 百代の过客」を見る。芭蕉と門人の曾良は、我が町 間々田を新暦の5月17日に通った後、山寺に到着したのは7月13日。芭蕉が聞いたのはアブラゼミかニイニイゼミか？この時期山寺ではまだセミは鳴いていないはず、では何を聞いたのか…。芭蕉の世界を俳句に詠まれたその場所に立って解説するこのビデオは大変興味深い内容だった。

### 山寺後藤美術館

広い展示室は「ガラス工芸アールヌーボーの世界」と「ヨーロッパ絵画の世界」に分けられ、特にエミール・ガレの幻想的なガラス工芸品は見応えがあった。

山形 16:05 「つばさ 122」

宇都宮 18:05

間々田 18:49 着



集印帳(家内の)の朱印が8つも増え、身も心も洗われたような、いい旅ができました。